特定非営利活動法人　とよたエコ人（びと）プロジェクト

2011（平成 23）年度

第 4 回通常総会　議案書

日　時　　2012 年 7 月 21 日（土）　　13：30　～　14：10

場　所　　豊田市福祉センター　4 階　46&47 会議室（錦町 1-1-1）

通常総会　次第

1．開会のあいさつ
2．議長の選出
3．議事録署名人の選出
4．定足数の確認
5．議案の審議

【審議事項】　第 1 号議案　　2011 年度事業報告（案）
　　第 2 号議案　　2011 年度収支決算（案）
　　第 3 号議案　　定款の変更について（案）

【報告事項】　1　2012 年度事業計画
　　2　2012 年度収支予算
　　3　役員の辞任について

6．議長解任
7．閉会

審議事項

第１号議案　　2011 年度事業報告　（期間　2011 年 6 月 1 日から 2012 年 5 月 31 日まで）

《 概要 》

特定非営利活動法人とよたエコ人プロジェクトは、豊田市環境学習施設 eco-T（エコット）で活動する市民が中心となって、参加体験型の環境学習を通して、持続可能で豊かな地域社会（エコライフとよた）の実現に寄与することを目的に、2009 年 3 月 19 日に法人登記されました。

設立３年目に当たる 2011 年度は、下記３点を重点テーマとして取り組んできました。

①人材の充実（eco-T 事務局スタッフ、エコ人を担う人、エコ人ファンづくり）

・eco-T 事務局スタッフの充実については、中堅・若手を新規採用し、現在、OJT を積んでいます。今後、新戦力が成長するにつれて、事務局のマンパワーの充実が期待できます。

・団体としてのエコ人を担う人材や、会員等を増やすエコ人ファンづくりについては、効果的な方策を打てず、進みませんでした。

②eco-T の充実・発展（初心にかえる、再オープン＋５周年に向けた魅力創出）

・前年度に引き続いて eco-T を１年間、運営することができました。旧清掃工場の解体工事に伴う利用制限もあり、2011 年度（2011 年４月～2012 年３月）は、来館者 7,974 人、見学 124 団体、講座開催 54 回・参加者 692 人でした。外部施設で開催したエコライフ講座は、参加者集めに苦労した半面、eco-T の PR という意味で効果がありました。

・運営や活動に当たる心構えとして「初心にかえる」を掲げ、おもてなし研修を実施した他、利用再開に向け、展示室のプログラムの更新に取り組みました。全インタープリターが使いこなせるようになるよう、シフト中を利用して練習をしています。

③新規事業の掘り起こし（緑のカーテン事業の継続・発展、＋α）

・前年度に豊田市からの相談を受けていた「豊田市環境学習ホームページ」について、企画・製作業務を受託し、学校の先生向け、子育て中の方向けのページ等を企画製作しました。

・「23 年度あいち森と緑づくり助成金」を受けて開始した「緑のカーテン」普及事業は、eco-T での実践と種子採取、報告集（ミニ冊子）の作成、報告会の開催等に取り組みました。２期目は「広める」を年間テーマとして、実行委員 14 名で５月末までに苗の育成、イベントでの PR・苗の配布、eco-T での実践（２年目）を進める等、活動が活性化しています。

・eco-T 運営以外の新規業務を作り出すことを目的に体制を見直しました。具体的には、豊田市西町に事務所を設置し、担当業務を見直して、専従スタッフを置くことにしました。今後は、豊田市中心市街地を拠点に、環境市民団体のオフィス機能の支援や活動者を増やすための試みなど、新たな展開を構想中です。

詳しくは以下の通りです。

【事業活動】

１．環境学習事業

（１）環境学習講座の実施

eco-T の運営を通して、環境学習を実施しようとしている団体向けに、各種の講座を実施しました。要請先との打合せから講座の企画、準備、市民講師（インタープリター）との調整や派遣を行いました。学校向けに出前講座を募集したこともあり、小・中学校向けが前年度（6 校 7 回）から急増しました。

また、エコ人として直接、交流館などから要請を受けて講座を企画し、人材を派遣して環境学習講座を実施したものもありました。

①eco-T の運営を通して実施した環境学習講座（出前講座および学校特別対応、視察研修対応）

区分	主な内容	講座数	参加人数
小・中学校	エコ活動への動機づけ、調べ学習、温暖化、エネルギーダイエット、eco-T のエコ探しなど	10 校 13 回	768
小・中学校関係者	展示学習プログラムの体験、意見交換	2	103
こども会	竹はし&はし袋づくり、牛乳パック工作、３R	3	174
行政	eco-T 見学、施設運営、市民活動、環境活動	8	137
自治区	豊田市のごみの現状、ごみ分別、節電、３R	3	84
企業	環境活動の事例紹介、環境モデル都市の取り組み、自分たちにできること	4	67
海外 （アジア青少年他）	見学と展示学習プログラム、世界のごみ処理ワークショップ、３R と資源循環、市民活動	5	125
その他（大人向け）	eco-T 見学、施設運営、市民活動、意見交換	5	104

合計　40 団体　43 回　1,562 人　　年度当初目標 25 回　⇒　達成率 172%

②エコ人が直接実施した出前講座（人材派遣）

回	開催日	派遣先	概要	参加人数
1	6/4（土）	猿投台交流館	環境にやさしい掃除方法の紹介	20
2	9/29（木）	豊田市職員研修 （豊田市役所）	eco-T の運営やエコドライブ共働事業などの事例紹介	16
3	2/13（月）	フラワーマルシェ 2012 （吹上ホール）	花のイベントの特設ステージで、緑のカーテンの事例紹介	60
4	3/2（金）	豊田市環境学習リーダー養成講座（崇化館交流館）	環境教育について	10
5	5/12（土）	とよたハウジングガーデン	会場内のエコマップづくり	21

合計　5 施設　5 回　127 人　　年度当初目標 5 回　⇒　達成率 100%

（2）環境学習を推進する人材の育成

eco-T の運営等を通して、環境学習を推進するための人材を育成し、活動の機会をつくりました。インタープリテーションの充実では、eco-T で活動するインタープリターといっしょに、eco-T 事務局も学びました。今年度は新たに、交流館で活動する人材の育成にも取り組みました。

区分／当初目標	概要／実績（成果）／達成率
インタープリテーションの充実 インプリ学習会 5 回 プログラム活用 2 件	学習会の機会提供や支援、既存展示学習プログラムの活用に向けた学習グッズやマニュアルの改訂 成果：インタープリター学習会 20 回 プログラム活用 3 件 （「ごみ分別・ダイエットゲーム」「食で省エネ大作戦」「とよたエコライフすごろく」の展示製作・更新） ⇒　達成率（学習会 400%、プログラム活用 150%）
インタープリター育成 新規 10 名（第 6 期）	主に eco-T の展示解説を通してエコライフを伝える人材の育成 成果：9 名受講、8 名修了、6 名ボランティア登録 ⇒　達成率 90%（受講者ベース）
学習コーディネーター育成 くらしの環境学習推進校の対応 12 校	学校や地域の要望と eco-T を結び付ける人材の育成 成果：平成 24 年度の「くらしの環境学習推進校」のうち 8 校を学習コーディネーター5 名が分担して担当 ⇒　達成率 67%
ボランティア活動の場 機会提供　5 回 ボランティア活動者 のべ 100 名	イベントや講座等で活動の機会を提供し、環境のボランティアをする人材を育成 成果（機会提供）：3 回（かえっこバザール学生ボランティア） 成果（活動者数）：のべ 45 名 ⇒　達成率（機会提供 60%、活動者数 45%）
インターン受入 10 名・日	eco-T やエコ人で活動したい人の受入れ 成果：大学生インターン 4 名（のべ 12 名・日） 職場体験（かごしま環境未来館職員）1 名（8 名・日） ⇒　達成率 200%
エコ力アップ講座 （地域インタープリター） 新規 10 名	交流館のエコ改修の案内をするとともに、環境活動を広げていく地域のインタープリターの育成 成果：18 名受講、14 名修了（益富＆猿投台交流館にて活動開始） ⇒　達成率 180%（受講者ベース）

（3）節電を啓発する学習プログラムづくり

東日本大震災の影響を受けて、全国的に電力不足が懸念される状況にありました。豊田市からの要請を受けて節電の啓発プログラムの開発を行いました。

子ども向け、主婦向け、一般向けの３つのプログラムを制作し、エコ力アップ講座で活用することができました。また、eco-T 館内でポスターを掲示したり、イベント出展時は節電に関する

体験プログラムを採り入れるといった啓発をしました。

２．環境学習等への支援、連携事業

（１）環境イベント等への出展、企画・運営支援

交流館や企業、自治区、市民団体など各種団体からの要請に応じて、環境学習や環境まちづくりを目的としたイベントの支援を行いました。

区分	出展内容	回数
ナゴヤハウジングセンター豊田会場イベント	手づくりサカナで釣り名人、省エネクイズ、省エネ宣言、かえっこバザール、節電アンケートなど	5 回・8 日
交流館祭	エコすごろく、省エネクイズ、ごみ分別ゲームなど	18 回
交流館イベント	かえっこバザール、牛乳パック工作など	2 回
産業フェスタ	省エネクイズ、ごみ分別ゲーム、缶バッチづくりなど	1 回・2 日
LOVE LAPPORT TOYOTA オータムフェア（JC 主催）	エコなお弁当を描こう、エコすごろく、ごみ分別ゲーム、省エネクイズ、缶バッチづくり、積み木など	１回
交通安全学習センター３月イベント	缶バッチづくり、牛乳パック工作など	１回
エコメーデー（労働組合イベント）	ごみ分別ゲーム、エコすごろくなど	１回
豊田市自然観察の森自然ふれあいフェスタ	ごみ分別ゲーム、牛乳パック工作、缶バッチづくり、緑のカーテン PR など	１回
ふれ愛フェスタ（市街地）	オリジナルエコバッグづくりなど	１回

（２）協議会等への参加

要請に応じて、協議会等に参加し、他施設のスタッフと情報交換しました。

協議会等の名称	内容
愛知県環境学習施設等連絡協議会（2/14）	県の施策の相談と学習施設の情報交換・交流の機会
豊田市環境学習施設連携会議（12/22）	市内の学習施設の情報交流会

（３）豊森なりわい塾事務局の支援

トヨタ自動車株式会社、豊田市、NPO 法人地域の未来・志援センターの３者の主催事業「豊森なりわい塾」の第２期運営に関して、事務局にスタッフを派遣し、事業の準備・運営や、豊田市・地域への橋渡しの支援を行いました。

３．環境配慮型商品等の普及促進事業

（１）緑のカーテン普及事業

省エネにつながる「緑のカーテン」の普及を目的に、「23 年度あいち森と緑づくり助成金」を活用し、初年度として経験・ノウハウの蓄積と一般への PR を行いました。

具体的には、eco-T での試行的な実践（栽培）と種子採取、専門家へのヒアリング、先行事例の視察、eco-T での PR（公共施設見学に来る小学４年生が中心）、市民リポーターからの情報収集、団体機関誌やブログ等での情報発信、報告会＆意見交換会の開催等です。「野菜類を栽培すると、採れすぎて困る」という声があることを反映して、亜熱帯産のくだもの「パッションフルーツ」での試行も行いました。

１年間の活動終了後には、報告集（ミニ冊子）を発行した他、名古屋市吹上ホールで開催された「フラワーマルシェ 2012」特設ステージにて、「広めよう！緑のカーテン」と題して講演も行いました。

１月末からは、２期目の活動を実行委員 14 名で開始。２期目は「広める」を年間テーマとして、５月末までに苗の育成、育て方講習会の開催（２年目）、イベントでの PR と苗・種子の配布、eco-T での設置・植付け・手入れ（２年目）、広めるためのノウハウやツールの蓄積と共有等を進めています。

＜eco-T での設置状況（５月 12 日）＞

＜豊田市自然観察の森イベントでの PR と苗・種子の配布（５月 27 日）＞

・ミニ冊子（活動レポート）　500 部（A５サイズ 16 ページ）

・2/13 フラワーマルシェにて講演（チラシ）

（2）リユースイベントの地域展開

リユース文化の醸成を図るため、eco-T の運営等を通して、おもちゃの交換イベント「かえっこバザール」を３回開催し、多数の親子が参加しました。開催の企画・準備・運営では、eco-T のインタープリターとともに、愛知学泉大学のボランティアサークル「ジョイナス」のメンバーが中心的な役割を果たしました。

＜かえっこバザール開催一覧＞

回	開催日	会場など	参加人数
1	7/16（土）	井郷サマーフェスタ（井郷交流館）	150 名
2	9/18（日）	ナゴヤハウジングセンター豊田会場	250 名
3	1/22（日）	ナゴヤハウジングセンター豊田会場	250 名

なお、年度当初に予定していた「リユースステーション」や「大人向けかえっこバザール」の試行的な開催については、次年度以降に検討を持ち越しました。

（3）地産地食・地域活性化の推進

地産地食の推進や地域活性化の一助となるよう、エコットフェスタ 2011（とよた環境フェスティバル 2011）の機会を利用して、豊田市の農山村地域や障がい者授産施設から出店していただきました。

（4）地元 PV 電力の活用

eco-T の新利用ガイドの作成に際し、藤岡南中学で発電されたグリーン電力を購入し、印刷用電力として活用しました。また、eco-T の平成 24 年度業務で作成する eco-T 通信やチラシの印刷用電力として、同電力を購入しました。この電力購入を通じて、エネルギーの地産地消に貢献するとともに、グリーン電力利用の PR を行います。

４．調査研究、政策提言事業

（１）各種委員会等への参加

行政等からの要請に応じて、委員会や意見交換会等に参加しました。

委員会等の名称	概要
とよたエコドライブプロジェクト実行委員会	国の環境モデル都市指定を受けて、エコドライブの普及により企業と市民の CO_2 と交通事故の削減を目指す取組み ＊二年間の取り組みに対して、市長ならびに警察署長より感謝状をいただきました。
節電の相談対応 （豊田市環境政策課）	中部電力浜岡原子力発電所の稼働停止に伴い、市から節電の啓発に関する相談を受けた。節電用学習プログラム作成業務を受注し、平易な言葉や親しみやすいイラストを使ったプログラムを製作した　⇒　１（３）に掲載
とよた元気なまちづくりコンソーシアム（環境創造研究センター）	商工会会議所青年部に所属する中小事業所の省エネ推進を図るコンソーシアムに参画
土橋小学校エコ改修事業学習会	施設のエコ改修事業に関連した環境教育の実施に関する意見交換ならびに学習会への参加
市民による『再生可能エネルギー利活用事業』のあり方検討会	委員として参加
木質バイオマスの利活用懇話会	パネリストとして参加
新設する学習施設の展示製作会社審査会、運営団体審査会	eco-T の運営の実績を買われ、審査員としてスタッフを派遣しました
クルマの未来についての意見交換会	県主催事業の企画・開催・参加者募集等に協力した

（２）自治体等へのレクチャー

eco-T の運営を通じて、関心のある自治体等に対して、市民参画や共働、環境学習施設の運営、環境学習の効果などについてのレクチャーを実施しました。

・かごしま環境未来館
・青森県弘前地区環境整備事務組合
・埼玉県川口市ごみ減量推進課
・津島市社会福祉協議会
・岡崎市環境総務課
・春日井市環境課
・中部リサイクル運動市民の会
（Re☆倉庫運営スタッフ）

５．情報受発信事業

（１）情報収集

環境学習や市民活動に関するメールマガジンの受信、専門誌の購入等により、引き続き情報の収集に努めました。

＜主な定期購読誌等＞

・ecomom（エコマム）
・のらのら
・ソトコト
・BIO-CITY
・季刊うかたま
・オルタナ
・Volo（ウォロ）
・GREEN　STYLE（フリーペーパー）
・GREEN　REPORT
・ビジネスアイ　エネコ
・月間廃棄物
・日経エコロジー
・月間環境ビジネス

（２）情報発信

団体の機関誌「季刊えこびと」を４回発行し、会員やお世話になった方々に配布した他、数ヶ所の施設等に配架しました。

＜季刊えこびと発行状況＞

号数	発行月	特集記事
4（2011 夏号）	7 月	緑のカーテン始めました（同時発行：講演会実施記録）
5（2011 秋号）	9 月	井藤伸比古さんインタビュー（もった博士の一番弟子）
6（2011 冬号）	12 月	非電化工房 藤村靖之さん講演会（エコットフォーラムより）
7（2012/5 月号）	5 月	前＆新「eco-T 事務局長」インタビュー

また、日本財団が提供する公益事業のコミュニティサイト「CANPAN」の団体ブログを、毎月３～８回程度更新し、緑のカーテンの成長の様子やイベント情報、理事の思いなどを発信しました。アクセス数は、平均 20～30 人/日程度でした。また、日本環境保護国際交流会（JEE）の構成団体の一つとして、昨年に続いて、団体の名称入り 2012 年度環境カレンダーを発行し、会員やお世話になった方々に配布しました。

なお、年度当初に予定していたホームページの製作は、24 年度前半に取り組むことになりました。

（３）環境学習 Web の制作

近年、パソコンやスマートフォンなど情報技術と機器が急速に発達・普及し、インターネット（Web）の世界がより身近になっています。豊田市においては、eco-T や自然観察の森で体験を通じた環境学習を行うことはできますが、自宅など日常的に行うには、情報が不足しています。

そこで、「次世代エネルギー実証実験」と連動する形で、市民に環境学習の機会をインターネットで提供することで、多くの市民が気軽にエコライフを学ぶための情報提供する事業を豊田市と共働（受託事業）で立ち上げました。

制作したホームページは、市民（閲覧者）に対し、より情報を見やすく探しやすくすると同時に、更新性にすぐれ、豊田市民が実践し情報交換できる豊田市らしい魅力的で何度も見たくなるような情報発信力の高いホームページとすることを目指しています。

対象	ホームページの名称	サービス内容
小学 4 年生の先生	私たちのごみのゆくえ	小学 4 年生向けの環境学習情報
子育て中の主婦	hibico（ひびこ）	お母さん向けエコ行動情報
エコファミリーの新規登録者	エコファミリー登録画面	HP 上で登録できる画面
低炭素社会モデル地区	エコフルタウン紹介	エコフルタウンの紹介、見学申込

・環境学習 web の画面

（4）シンポジウム等の開催

第３回総会と合わせて、７月 16 日（土）、豊田産業文化センターにて、「～地域の力を活かす～　学び合うコミュニティづくり」を開催しました。eco-T で人気のユニークで楽しい科学講座「もった博士のかがく倶楽部」の企画・運営チームによる大人向けの科学講座に続いて、リーダーを務める井藤伸比古さんから、学びの本質や、学びの場をつくる際に心がけていることについて紹介していただきました。

６．環境学習施設等の管理運営事業

前年度に引き続いて、豊田市から委託を受けて、豊田市環境学習施設 eco-T（エコット）を運営しました。旧清掃工場の解体工事に伴い、主催講座やイベント・期間展示を外部施設で開催する形式となりましたが、大きなトラブルなく１年間、運営することができました。また、2012 年度（2012 年４月より１年間）の運営も、引き続き豊田市から受託することができました。

年度当初からの課題であった「スタッフの充実」については、中堅・若手を新規採用し、現在、OJT を積んでいます。引き続き今年度も、時期を見て職員を募集し、事務局のマンパワーの充実を図ります。

７．その他、法人の目的を達成するために必要な事業

活動はありませんでした。

【法人運営】

１．会員

23 年度は、正会員・賛助会員を合わせて、54 名・１団体でした。22 年度と比べてメンバーの入れ替わりはありましたが、会員総数は変わりませんでした。

区分	23 年度会員数	年度当初目標	【参考】22 年度会員数
正会員	22 名	30 名	24 名
賛助会員･学生会員	31 名・１団体	70 名	29 名・１団体

２．寄付等

12 月 3 日（土）に、とよた市民活動センター10 周年記念市民事業として開催された「活動を元気にするチャリティーコンサート」の実行委員として参画し、団体紹介を行い、チケットの売上金の一部（４万円）を、活動助成金として受け取りました（売上金の一部は東日本大震災の被災者支援に活用されました）。

３．会議の開催

（１）通常総会

7 月 16 日（土）、豊田産業文化センターにて出席者 25 名（うち表決委任者２名、書面表決者６名）で開催しました。2010 年度事業報告、2010 年度収支決算について審議し、議決しました。

（２）理事会

12 回開催し、運営上の課題や新規事業、新事務所の開設、つなぎ融資の借入等について話し合いました。

＜理事会開催一覧＞

回	開催日	主な議題	出席者数
1	6/14（火）	総会準備、23 年度重点テーマ、節電学習プログラムの製作	6（3）
2	6/28（火）	総会議案書最終確認、とよた省エネ元気なまちづくりコンソーシアム、環境学習 web、eco-T 期間展示ふりかえり	6（3）
3	8/24（水）	総会ふりかえり、新規採用、資金繰り、インタープリターの新規育成と活躍の場づくり	9（1）
4	9/27（火）	緑のカーテン、新事業部設置、エコ人ファンづくり、チャリティーコンサート	7（1）
5	10/27（木）	つなぎ融資、体制づくり、緑のカーテン、新事務所、再生可能エネルギー利活用事業のあり方検討会、企業向け社員研修	8（1）
6	12/20（火）	環境学習 web、eco-T24 年度事業方針、24 年度の新事業	9（1）
7	12/20（火）	つなぎ融資借入	9（1）
8	1/31（火）	新事務所、年度収支見通し、eco-T 再オープン、他の公共施設との連携、チャリティーコンサート活動支援金用途	7（1）
9	2/28（火）	求人、事務所移転、情報発信の充実、収支予測、新事業提案	6（1）
10	3/27（火）	総会企画、とよた省エネ元気なまちづくりコンソーシアム 24 年度企画、職員の給与	9（1）
11	4/24（火）	職員の新規採用、事務所備品、総会準備、環境学習 web、ロードマップ、あいち観光まちづくりゼミ	6（1）
12	5/22（火）	事務所の運営ルール、他団体との支援・連携、23 年度重点目標の達成度評価	8（1）

※出席者数の（　）内は、当団体スタッフおよびアドバイザーの出席人数

４．研修等

施設運営の向上や学習事業の充実を図るため、eco-T 事務局スタッフが自ら視察先を検討・調整し、類似施設や環境学習に取り組んでいる団体等に視察に行きました。その他、外部で開催された研修会等に参加する形で、スタッフや理事の研修を行いました。

＜eco-T 事務局スタッフによる類似施設・団体等の視察研修＞

回	視察実施日	視察先
1	9/30（金）	まつやま Re･再来館 視察
2	11/4（金）,5（土）	東京デザイナーズウィーク 2011 視察 八戸ポータルミュージアムはっち 視察
3	11/22(火),23(水)	かごしま環境未来館 視察 ベニシア・スタンリー・スミス氏講演会「自然と調和して暮らす」
4	1/11（水）	板橋区立エコポリスセンター 視察 NPO 法人川口市民環境会議 訪問

＜スタッフや理事が参加した外部の研修会等（主なもの）＞

・今この時代に環境教育・学習をどうすすめるか　～日本型環境教育の実践～
・第２回社会人講師研修　地域の魅力を再発見させる社会人講師とは
・プロセスマネージャー養成塾　未来デザイン講座「未来をデザインする力を養う」
・つながるいのちの感謝祭
・電通＋NPO 広報力向上委員会　「伝えるコツ」を見につけよう
・環境モデル都市シンポジウム　スマートシティで暮らそう
　～ハイブリッドシティとよたの実現に向けて～
・なごや環境大学　支援を考えるワークショップ
・クルマの未来についての意見交換会
・ミーティング・ファシリテーションを学ぶ８時間
・省エネ対策講習会
・３Ｒ＆低炭素社会検定（受験）
・地球温暖化防止活動推進センター全国会議、低炭素杯 2012
・あいち森と緑づくり事業報告会
・あいち観光まちづくりゼミ

【新聞掲載】

・中日新聞 2012 年 2 月 7 日朝刊（フラワーマルシェ）

Flower Marché フラワーマルシェ

花いちばへようこそ

吹上ホール　10日（金）～13日（月）　9時30分～17時（入場は16時30分まで）

花の祭典「フラワーマルシェ」が十～十三日の四日間、名古屋市千種区の吹上ホールで開かれる。昨年まで毎年春に十二回続いたフラワードームという催しの内容を一新。バレンタインデーに向け、まるで欧州の花の市場（マルシェ）のように花や生産者とふれあいながら、切り花や鉢花、園芸用品の買い物を楽しめる。

バレンタイン 女性に花束を

バラ100本と撮影コーナーも

女性が女性の友人に贈る「友チョコ」、男性が女性に渡す「逆チョコ」など、バレンタインデーのチョコレートの贈り方が多様化している。そんな中、全国の花店は「男性から女性へ花を贈る日」と呼びかけている。

「もともと、男女がお互いに愛や感謝の気持ちを伝え合う日なんです」と、名古屋生花小売商業協同組合の副理事長川島悦雄さん（六）。「欧米は、男性から女性に花を贈るのが一般的。特にバレンタインデーは予約しないと花が当日買えないこともあるくらい。花店にとっては一番忙しい日」と話す。

今年は、組合に所属する東海三県の七百二十店でポスターを張って「バレンタインデーには女性に花を」と呼び掛け始めた。フラワーマルシェの会場ではバレンタイン向けの花束を販売するほか、バラ百本で作った花束と一緒に入場者が記念写真を撮れるコーナーも設ける。

全国の花業界と農林水産省も「フラワーバレンタイン」と銘打ってキャンペーンを推進。専用ホームページでは、恋の進展段階別にどんな花を女性に贈ったら良いのか紹介している。花店に足を踏み入れたことさえない男性向けの企画。ちなみに「友達以上恋人未満」の微妙な関係なら、チューリップが適当だとか。

川島さんは、フラワーマルシェにやってくる女性客にも「赤いバラの花束の魅力にぜひ触れて。そして『私はチョコを贈うから、あなたは花束を』と相手にお願いしてみては」と呼びかけ、男性客への波及効果に期待している。

100本のバラの花束を手に、「大切な人へ花束を」とフラワーバレンタインを薦める川島悦雄さん＝名古屋市東区で

プロの助言 気軽に聞いて

山野草、寄せ植え実演販売

野外広場いっぱいに並べられた色とりどりの花々。「ベランダであまり手がかからないのは、どれ？」と客が尋ねる。かたわらで鉢植えの手入れをしていた生産者が素早く答えた。

「ゼラニウムがお薦めですよ。冬も越せます。水はやりすぎないようにね」

アムステルダムやパリの青空市で、日常的な光景。フラワーマルシェの会場で生産者が寄せ植えを実演販売する「あいち花工房」のコーナーも、そんな客と生産者の気さくな関係を目指している。

「水やり一つとっても、花の手入れは普通のお客さんに分からないことが多いはず」と、このコーナーを企画した愛知県西尾市の大塚和義さん（ ）。県花き温室園芸組合連合会の鉢物PR委員長だ。「たとえば説明書の『たっぷり』の水とは実際にどれくらいなのか。生産者なら自信を持って答えられる」

大塚さん自身も、生産している山野草の寄せ植えを展示する。愛らしい白い花を咲かせるカラマツソウや青紫色のヒナソウをほどよく組み合わせ、青々したコケを敷けば完成だ。「小さな日本庭園。部屋に一つあるだけで楽しい気持ちになるはず」と笑った。

大塚さんの委員会は鉢花と観葉植物、洋らん、和物の四部会があり、ミニバラやベゴニア、山野草など数十種を出品。千～二千円のお手ごろ価格で販売する。

「フラワーマルシェ」に山野草を出展し、販売する大塚和義さん＝愛知県西尾市で

ガイド

＊前売り券は800円（500円の金券付き）。9日まで中日新聞販売店と主要コンビニなどで販売中。当日券は500円の金券付きが1000円、入場券のみが600円。高校生以下は入場無料

＊会場最寄り駅は、地下鉄「吹上」駅

＊HPは「フラワーマルシェ」で検索

＊問い合わせは、事務局＝電052（221）0956（平日前10～後6）

主催　中日新聞社、愛知県、名古屋市、東海テレビ、愛知県花き温室園芸組合連合会、名古屋園芸　協賛　愛知県組織委員会、愛知県宅地建物取引業協会、東急グループ、サントリー

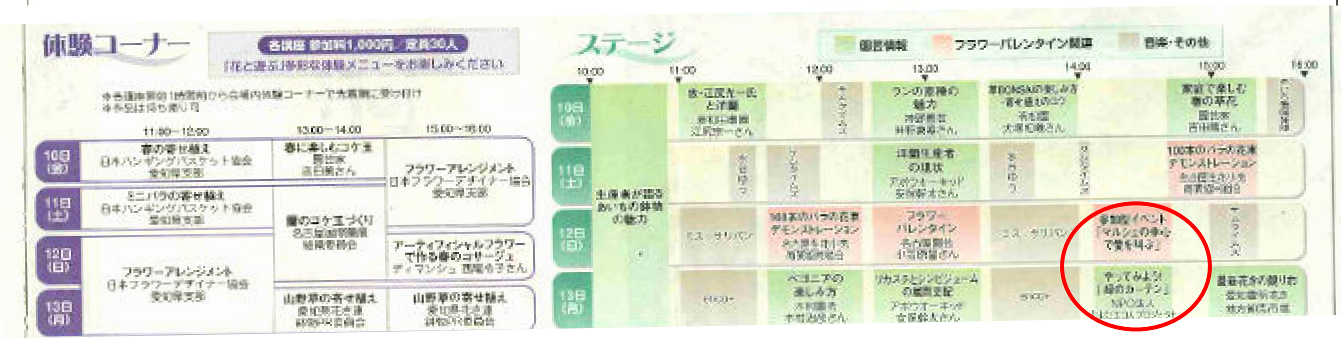
体験コーナー

各講座 参加料1,000円／定員30人

「花と遊ぶ」多彩な体験メニューをお楽しみください

ステージ

園芸情報　フラワーバレンタイン関連　音楽・その他



・中日新聞 2012 年 2 月 7 日朝刊（クルマの未来についての意見交換会）

「クルマの未来」4テーマで討論

県企画、豊田で

自動車の未来を考える討論会が八日、豊田市若宮町のとよた市民活動センターであり、地元のNPOメンバーや自動車部品製造業者ら三十人が参加した。

自動車産業の強化や快適なクルマ社会づくりを目指す「あいち自動車産業イノベーションプラン（仮称）」の策定を進めている県が、県民の意見を取り入れようと企画した。

プランの概要について県職員から説明を受けた参加者は「環境」「交通」「産業」「安全」の四テーマに分かれて討論。提案や要望を出し合い、結果を発表した。

交通をテーマに討論した班は「車と生活」と題して発表。電気自動車など次世代型自動車の普及について、今ある車を電気自動車に変えるだけではなく、お年寄りでも一人で乗って移動できるような新しい乗り物を開発、定着させるプランを提案。「先進的な県としてPRにもなる」と話した。

県は討論会で出た意見をまとめ、可能な範囲で反映させる。

テーマに沿って話し合う参加者＝豊田市若宮町のとよた市民活動センターで

第２号議案　　2011 年度収支決算　（期間　2011 年 6 月 1 日から 2012 年 5 月 31 日まで）

１．活動計算書

（単位：円）

科目	2011年度		2010年度		備考（2011年度）
Ⅰ経常収入					
１　会費収入					
・正会員会費収入	220,000		240,000		正会員10,000円×22名
・賛助会員（個人）会費収入	58,000		39,000		賛助会員（個人）31名、1,000円×58口
・賛助会員（団体）会費収入	21,000	299,000	12,000	291,000	賛助会員（団体）1団体、3,000円×7口
２　事業収入					
・環境学習事業	477,500		1,834,110		交流館等出前講座、節電プログラム作成
・環境学習等への支援・連携事業	905,111		675,000		豊森なりわい塾、環境イベント等出展など
・環境配慮型商品等の普及促進事業	60,000		0		パッションフルーツ苗
・情報受発信事業	8,400,000		0		環境学習WEB
・環境学習施設等の管理運営事業	41,580,000		41,580,000		豊田市環境学習施設eco-T
・その他の事業	0	51,422,611	98,600	44,187,710	
３　受取助成金	0	0	250,000	250,000	
４　寄付金収入	40,000	40,000	2,000	2,000	1件
５　その他収入					
・受取利息	1,858		1,392		
・雑収入	262,559	264,417	0	1,392	職場研修受入、配当金
経常収入合計		**52,026,028**		**44,732,102**	
Ⅱ経常費用					
１　事業費					事業運営に関する費用
1）人件費					
・給与手当	18,434,428		18,926,596		豊田市環境学習施設eco-T：10名、環境学習WEB：1名（兼務）など
・法定福利費・通勤費	2,366,485		2,174,070		
・アルバイト給与	572,205	21,373,118	346,000	21,446,666	講座アルバイト費用、学習コーディネーター費用、節電プログラム作成など
2）その他経費					
・通信費	60,140		373,369		
・水道光熱費	7,875		0		
・旅費交通費	4,158,115		5,259,180		インタープリター交通費など
・広告宣伝費	1,795,184		1,446,549		イベントチラシ、eco-T通信など
・会議費	67,365		10,400		
・事務用品・消耗品費	995,693		700,878		
・講座・イベント等材料費	482,662		566,492		
・新聞図書・展示用品費	689,790		467,006		新聞・雑誌購読料、参考図書など
・リース料	529,200		752,700		業務車両リース、貸切バスなど
・修繕費	204,855		189,170		LED交換、備品修繕など
・保険料	80,960		101,940		ボランティア保険、行事保険
・租税公課	30,000		21,550		
・福利厚生費	183,635		137,072		
・報酬	975,075		2,279,222		チラシなどデザイン、講師謝金など
・支払手数料	38,944		182,114		ごみ処理手数料、振込手数料など
・外注加工費	6,469,890		0		環境学習WEB制作
・雑費	0	16,769,383	3,000	12,490,642	
２　管理費					運営、広報、経理、労務等に関する費用
1）人件費					
・給与手当	2,217,000		2,195,290		兼務職員分は従事割合により按分
・賞与	2,212,000		1,004,000		
・法定福利費	251,874	4,680,874	352,923	3,552,213	
2）その他経費					
・通信費	17,880		39,885		
・水道光熱費	8,738		0		
・旅費交通費	75,310		64,340		
・広告宣伝費	46,000		40,200		環境カレンダー
・会議費	6,180		14,097		
・事務用品・消耗品費	200,780		232,971		事務所棚、消耗品など
・新聞図書費	3,934		4,780		
・修繕費	367,550		0		事務所カーペット
・地代家賃	562,500		120,000		事務所家賃
・租税公課	3,930		11,568		
・諸会費	21,000		20,000		中部リサイクル運動市民の会、自治会費
・福利厚生費	75,476		90,563		健康診断など
・支払手数料	1,323,112		1,294,937		IT、総務（経理・労務）支援、振込手数料など
・支払利息	7,246	2,719,636	13,611	1,946,952	
3　法人税、住民税および事業税	1,779,840	1,779,840	1,447,500	1,447,500	
経常費用合計		**47,322,851**		**40,883,973**	
Ⅲ正味財産増減の部					
当期正味財産増減額		**4,703,177**		**3,848,129**	
前期繰越正味財産額		4,284,732		436,603	
次期繰越正味財産額		**8,987,909**		**4,284,732**	

■財務諸表の注記

●会計方針

財務諸表の作成は、NPO 法人会計基準（2010 年 7 月 20 日 NPO 法人会計基準協議会）によっています。

●経常費用の部門別内訳

（単位：円）

科目	環境学習事業	環境学習等への支援・連携事業	環境配慮型商品等の普及促進事業	情報受発信事業	環境学習施設等の管理運営事業	その他の事業	管理部門	合計
1 事業費								
1）人件費								
・給与手当	120,000	540,000	0	630,000	17,144,428	0	0	18,434,428
・法定福利費・通勤費	0	62,086	0	90,550	2,213,849	0	0	2,366,485
・アルバイト給与	255,000	0	0	5,000	312,205	0	0	572,205
人件費計	**375,000**	**602,086**	**0**	**725,550**	**19,670,482**	**0**	**0**	**21,373,118**
2）その他経費								
・通信費	0	0	0	0	60,140	0	0	60,140
・水道光熱費	0	0	0	0	7,875	0	0	7,875
・旅費交通費	2,000	34,000	0	17,500	4,104,615	0	0	4,158,115
・広告宣伝費	0	0	0	63,650	1,731,534	0	0	1,795,184
・会議費	0	0	2,345	0	65,020	0	0	67,365
・事務用品・消耗品費	0	36,315	36,750	0	922,628	0	0	995,693
・講座・イベント等材料費	2,576	52,860	82,130	0	345,096	0	0	482,662
・新聞図書・展示用品費	4,250	0	1,260	0	684,280	0	0	689,790
・リース料	0	0	0	0	529,200	0	0	529,200
・修繕費	0	0	0	0	204,855	0	0	204,855
・保険料	0	0	0	0	80,960	0	0	80,960
・租税公課	0	0	0	0	30,000	0	0	30,000
・福利厚生費	0	0	0	819	182,816	0	0	183,635
・報酬	0	0	0	30,000	945,075	0	0	975,075
・支払手数料	0	0	0	630	38,314	0	0	38,944
・外注加工費	0	0	0	6,469,890	0	0	0	6,469,890
その他経費計	**8,826**	**123,175**	**122,485**	**6,582,489**	**9,932,408**	**0**	**0**	**16,769,383**
2 管理費								
1）人件費								
・給与手当	0	0	0	0	0	0	2,217,000	2,217,000
・賞与	0	0	0	0	0	0	2,212,000	2,212,000
・法定福利費	0	0	0	0	0	0	251,874	251,874
人件費計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**4,680,874**	**4,680,874**
2）その他経費								
・その他経費	0	0	0	0	0	0	2,719,636	2,719,636
その他経費計	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**2,719,636**	**2,719,636**
3 法人税、住民税および事業税								
・法人税等	0	0	0	0	0	0	1,779,840	1,779,840
合計	**383,826**	**725,261**	**122,485**	**7,308,039**	**29,602,890**	**0**	**9,180,350**	**47,322,851**

２．貸借対照表

（単位：円）

科目・摘要	2011年度		2010年度		備考（2011年度）
Ⅰ　資産の部					
１　流動資産					
現金	640,791		208,282		
普通預金	18,414,732		11,961,464		三菱東京UFJ銀行、豊田信用金庫、ゆうちょ銀行
売掛金	92,000		50,000		
未収金	21,000		250,000		事務所シェア（家賃収入）
前払費用	215,000		0		事務所家賃、映画上映料（総会）ほか
立替金	7,480		6,900		
流動資産合計		19,391,003		12,476,646	
２　固定資産	0		0		
固定資産合計		0		0	
３　投資等					
保証金	450,000		0		事務所保証金
出資金	10,000		10,000		豊田信用金庫
投資等合計		460,000		10,000	
資産合計		19,851,003		12,486,646	
Ⅱ　負債の部					
１　流動負債					
買掛金	567,598		262,705		事務用品、eco-T利用パンフレットなど
未払金	3,646,290		1,977,031		5月分給与、賞与、社会保険、ボランティア交通費など
前受金	4,372,000		4,265,000		豊田市環境学習施設eco-T
預り金	520,866		249,678		社会保険、雇用保険、源泉所得税、住民税
未払い法人税等	1,756,340		1,447,500		
流動負債合計		10,863,094		8,201,914	
２　固定負債	0		0		
固定負債合計		0		0	
負債合計		10,863,094		8,201,914	
Ⅲ　正味財産の部					
前期繰越正味財産		4,284,732		436,603	
当期正味財産増加額		4,703,177		3,848,129	
正味財産合計		8,987,909		4,284,732	
負債および正味財産合計		19,851,003		12,486,646	

３．財産目録

（単位：円）

科目・摘要	2011年度		2010年度	
Ⅰ　資産の部				
１　流動資産				
現金預金				
現金　　現金手許有高	640,791		208,282	
普通預金　三菱東京UFJ銀行　豊田南支店	2,209,350		3,484,088	
普通預金　豊田信用金庫　本店営業部	16,175,582		8,466,576	
普通預金　ゆうちょ銀行	29,800		10,800	
売掛金				
事業収入	92,000		50,000	
未収金	21,000		250,000	
前払費用	215,000		0	
立替金	7,480		6,900	
流動資産合計		19,391,003		12,476,646
２　固定資産	0		0	
固定資産合計		0		0
３　投資等				
保証金	450,000		0	
出資金	10,000		10,000	
投資等合計		460,000		10,000
資産合計		19,851,003		12,486,646
Ⅱ　負債の部				
１　流動負債				
買掛金				
事業費（事務用品費・広告宣伝費・支払手数料）	567,598		262,705	
未払金				
給与手当	1,760,055		1,235,414	
賞与	979,041		0	
法定福利費・通勤費	270,025		136,110	
事業費（交通費・通信費など）	267,079		362,707	
管理費（家賃・備品・支払手数料（IT・総務支援））	370,090		242,800	
前受金				
事業収入	4,372,000		4,265,000	
預り金				
社会保険料	301,015		102,396	
雇用保険料	18,992		57,882	
源泉所得税	163,259		60,100	
住民税	37,600		29,300	
未払い法人税等	1,756,340		1,447,500	
流動負債合計		10,863,094		8,201,914
２　固定負債	0		0	
固定負債合計		0		0
負債合計		10,863,094		8,201,914
正味財産		8,987,909		4,284,732

４．監査報告

2011年6月1日から2012年5月31日までの特定非営利活動法人とよたエコ人プロジェクトの決算書類を監査した結果、処理が適正である事を認めます。

2012年　7　月　11　日　　監事　石村正好　　印

第３号議案　　定款の変更について

特定非営利活動促進法および同施行令の一部改正に伴い、次のように定款を変更したいので、承認をお願いします。

●法令改正のあらまし

１．定款変更に係る定款の規定（法第 25 条第 3 項関係）

定款を変更する場合に、所轄庁の認証を必要とする事項について、従来は「法に規定する軽微な事項以外」とされていましたが、改正後は「法に規定する事項」となり、軽微な事項という表現が無くなるとともに、定款変更に認証を必要としない（届出のみで足りる）事項が拡大されました。

２．会計基準の変更に係る定款の規定（法第 10 条第 1 項第 8 号及び第 27 条第 3 号関係）

NPO 会計基準が策定され、所轄庁への提出が必要な事業報告書のうち、収支計算書が活動計算書に改正されます。

■定款変更新旧対照表

現状	変更案
（権能） 第 23 条　総会は、以下の事項について議決する。 (1) 定款の変更 (2) 解散 (3) 合併 (4) 事業報告及び収支決算の承認 (5) 役員の選任または解任、職務及び報酬 (6) 借入金（その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第 48 条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄 (7) その他運営に関する重要事項	**（権能）** 第 23 条　総会は、以下の事項について議決する。 (1) 定款の変更 (2) 解散 (3) 合併 (4) 事業報告及び決算の承認 (5) 役員の選任または解任、職務及び報酬 (6) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第 48 条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄 (7) その他運営に関する重要事項
（権能） 第 32 条　理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。 (1) 事業計画及び収支予算並びにその変更 (2) 会費の額 (3) 事務局の組織及び運営 (4) 総会に付議すべき事項 (5) 総会の議決した事項の執行に関する事項 (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項	**（権能）** 第 32 条　理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。 (1) 事業計画及び予算並びにその変更 (2) 会費の額 (3) 事務局の組織及び運営 (4) 総会に付議すべき事項 (5) 総会の議決した事項の執行に関する事項 (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

（資産の構成） 第 39 条　この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。 (1) 設立当初の財産目録に記載された資産 (2) 会費 (3) 寄付金品 (4) 財産から生じる収入 (5) 事業に伴う収入 (6) その他の収入	（資産の構成） 第 39 条　この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。 (1) 設立当初の財産目録に記載された資産 (2) 会費 (3) 寄付金品 (4) 財産から生じる収益 (5) 事業に伴う収益 (6) その他の収益
（事業計画及び予算） 第 42 条　この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、代表理事が作成し、理事会の議決を経なければならない。	（事業計画及び予算） 第 42 条　この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、代表理事が作成し、理事会の議決を経なければならない。
（暫定予算） 第 43 条　第 42 条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。 ２　前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。	（暫定予算） 第 43 条　第 42 条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。 ２　前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。
（事業報告及び決算） 第 46 条　この法人の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。 ２　決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。	（事業報告及び決算） 第 46 条　この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。 ２　決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。
（定款の変更） 第 49 条　この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、軽微な事項として法第 25 条第３項に規定する以下の事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。 (1) 主たる事務所及び従たる事務所の所在地（所轄庁の変更を伴わないもの） (2) 資産に関する事項 (3) 公告の方法	（定款の変更） 第 49 条　この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、法第 25 条第３項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

報告事項

1　2012 年度事業計画　（期間　2012 年 6 月 1 日から 2013 年 5 月 31 日まで）

《 方針 》

法人設立３年（期）、法人設立のきっかけとなった eco-T は 5 周年を迎えました。

これまでは、eco-T の事業として、①学校、②交流館、③イベント等への出展を行ってきました。eco-T は 6 月 1 日より利用再開となり、来館者対応に力を入れた運営を行います。

また、eco-T の事業と法人としての事業を区別して、施設運営から飛び出した事業展開を図ります。

2012 年度の重点テーマ

・中期ビジョンの策定（３～５年後）

・人材の充実（eco-T 事務局スタッフ、エコ人を担う人、エコ人ファンづくり）

・他団体等と連携した事業展開

《 イメージ 》

●eco-T の重点

	ソフトの充実	ハードの充実
①来館者対応		
②学校向け	次の展開策定	
③地域向け		

●ポイント

・環境学習の担い手の育成（新規、発展）

・事務局の成長（ボランティアコーディネート力（りょく）、事業の計画性と柔軟な対応）

・成果や効果の見える化

●新事業

・緑のカーテン事業

・環境学習 Web（豊田市委託）事業

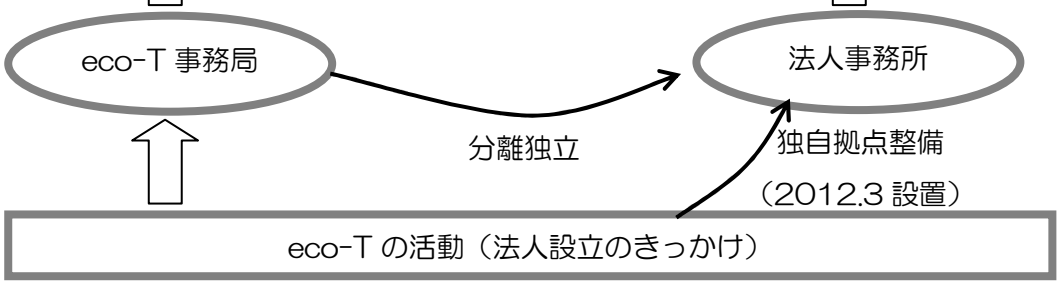
・環境まちづくりに関する事業

●団体の基盤整備

・拠点整備と活動者のオフィス機能の支援（エコライフを普及啓発していく事業のサポートやコーディネート）

・情報発信の充実

・会員の力を引き出す運営



【事業活動】

１．環境学習事業

（１）環境学習講座の実施

環境学習を実施しようとしている各種団体（小・中学校、高校、大学、企業、こども会、自治区、行政など）向けに、出前講座や eco-T で学習プログラムを提供します。出前講座については、より幅広い要望にこたえるべくメニューの充実と講師の育成を図るとともに、学習コーディネーターの関わりについて検討していきます。

対象	目標
小・中学校、高校・大学、企業、こども会、自治区・サークル、行政など、環境学習を実施しようとしている各種団体	eco-T 業務　25 件 eco-T 以外　5 件

（２）環境学習を推進する人材の育成

eco-T のインタープリターや学習コーディネーター、ボランティア活動の担い手を育成します。また、今年度は新たに、豊田市環境学習サイト「hibico」の記事のインタビュアー兼ライターの育成を行います。

学習会や研修、実際の活動を通じて、それぞれのレベルアップを図ります。

項目	内容	目標
インタープリテーションの充実	学習会の開催（支援）やうまく活用されていない既存展示学習プログラムの活用に向けた、学習グッズやマニュアルの改訂	インプリ学習会　５回 展示学習プログラムの活用　２件
インタープリター	展示解説や出前講座を担う人材の育成	新規 10 名
学習コーディネーター	学校や交流館などの学習事業企画者の要望を聞きプログラムを作成し、市民講師（インタープリターなど）との橋渡しをする人材の育成	メイン担当者を５名に
ボランティア	イベントや講座等でボランティアの機会を提供し、運営の手伝いをする人材の育成（大学生ボランティアなど）	機会提供　5 回 ボランティア活動者 のべ 100 名
インターン	エコ人や eco-T で活動したい人の受入れ	10 名
地域インタープリター	昨年度育成した交流館の環境配慮を伝える人材のステップアップ支援	２交流館、10 名程度
エコライター育成	昨年度立ち上げた豊田市環境学習情報サイト「hibico」の取材・記事作成をする人材育成 ＊H24 環境学習 Web 更新業務で実施	10 名程度

２．環境学習等への支援、連携事業

（１）環境イベント等への企画・運営支援、ブース出展

交流館や企業、自治区、市民団体など各種団体からの要請に応じて、環境学習や環境まちづくりを目的としたイベントの支援を行います。

①イベントの部分的なプロデュースや運営、ごみ減量・グリーン電力化に向けた提案の実施

②リユースイベント（かえっこバザール）の地域展開や、新しい催し物の開発

③eco-T やエコ人の PR を主目的とした、楽しみの要素を中心としたブース出展

（２）豊森なりわい塾　講座運営支援

山里で自然の恵みに根ざしたなりわいで生きていきたい人、 まちに暮らしながら山里とのつながりの中で生きていきたい人のための塾です。豊田市、トヨタ自動車株式会社、（NPO）地域の未来・志援センターの三者で運営しています。

2011 年 4 月から始まった 2 期の運営に対して、講座の準備・運営、豊田市や地域への橋渡しの支援を行っています。

（３）とよた・あいち省エネで元気な事業所コンソーシアム　事務局運営支援

2011 年度より愛知県地球温暖化防止活動推進センターや豊田市、商工会議所青年部を初めとする関係者と協働して「とよた・あいち省エネで元気な事業所コンソーシアム」を組織し、小規模事業者の省エネ・エコ活動の推進を支援しています。

今年度は、登録した事業所を「さんしゅう ECO 倶楽部」と称して、登録事業所の拡大やエネルギーの見える化と削減アドバイスの実施や意見交換会を開催します。

省エネ拠点を当団体事務所に設置し、事務局の運営を支援しています。

（４）とよた環境学習・環境活動支援拠点の運営

当団体の事務所を活用して、地域の環境学習ならびに環境活動を支援する取り組みを始めます。豊田市中心市街地には、とよた市民活動センターや図書館がありますので、支援内容は、オフィス機能を中心に整備、運営していきます。

（５）各種協議会等への参加

要請に応じて、協議会等に参加します。

・愛知県環境学習施設連絡協議会

・豊田市環境学習施設連携会議　ほか

３．環境配慮型商品等の普及促進事業

（１）緑のカーテン普及事業

昨年度に引き続き、省エネにつながる「緑のカーテン」の一般家庭等での普及を目的として、イベント等の場を利用した PR や苗の配布、eco-T での実践を行います。公共施設見学で渡刈クリーンセンターにやってくる小学４年生や施設利用者を中心に、実際に目にしてもらうことで、緑のカーテンを PR します。また、実行委員メンバーが緑のカーテンを広める人になれるよう、経験を積むとともに、ツール等を開発します。

実践（栽培）終了後には、取組みの成果を反映して、昨年度作成したミニ冊子を改訂します。また、翌春の PR の機会づくりや事業の推進に向けて、他団体等との連携を模索します。

（２）リユースイベントの地域展開

子どものおもちゃの交換イベント「かえっこバザール」を交流館等で展開し、リユース文化の醸成を図ります。また、eco-T で「くるっと文庫」を復活させて書籍の交換を行うなど、新たなリユースのしくみづくりを検討します。

（３）地産地食・地域活性化の推進

イベント開催等の機会を利用して、豊田市内や矢作川流域の産直品の販売や授産施設の商品を販売することで、交流を図り、地産地食の推進や障がい者の就労支援など、自分が暮らす地域を自分が（買い）支えることの大切さを PR します。

４．調査研究、政策提言事業

各種委員会やシンポジウム等への参加を通じて、市民の環境行動の促進や環境まちづくりの推進に向けた情報収集ならびに展開が可能な事業の試行を試みます。

（１）活動者を増やす試み研究会

より豊かで効果的な地域づくりを行うためには、環境学習のみでは効果がわかりづらい。もう一歩エコライフを進めるためには、実践的な活動者を育成することが必要である。そこで、市民活動やコミュニティビジネスを担う活動者が、どのようにしたら生まれるのかを考え、その支援策を検討する研究会を開催する。

（２）現在、参加している取り組み

・豊田市環境審議会
・とよた・あいち省エネで元気な事業所コンソーシアム（中小事業所の省エネ活動の促進）
・千年委員会（豊田市の持続可能な地域づくりに取り組む団体の情報交換）
・地域再生実践塾（共働によるまちづくりの研修）
・平成 24 年度あいち観光まちづくりゼミ（新たな観光資源＝着地型観光を企画・試行する）

５．情報受発信事業

（１）環境学習 Web の更新

昨年度に引き続き、豊田市環境学習サイトの制作・更新を行います。

①渡刈クリーンセンターの見学からごみの処理や減量について考える「私たちのごみのゆくえ」は、先生に利活用してもらい、その評価からマイナーチェンジを行います。また、授業例や貸出グッズを充実させて、小学校の先生が授業をしやすい環境づくりを行います。

②子育て中のお父さん、お母さん向けのサイト「hibico」は、豊田市に住む身近な人のエコ行動を月２～４本の記事を更新。その担い手を育成することで、更新頻度が加速するようなしくみと人づくり取り組みます。

③エコフルタウンのホームページは、今年度（4 月～3 月）分はメンテナンスと軽微な変更を受けもちます。

④新年度の取り組みとして、「豊田市低炭素社会システム実証プロジェクト」の実証メニューとも連動をはかりながら、市民のライフスタイルを変革すること、エコファミリー制度の登録者の環境配慮行動を促進すること、とよたエコポイント制度のメニューを利用しやすくすること、などを目的に、エコファミリー登録サイトを拡充して環境学習・環境行動を促進するホームページを追加します。

（２）団体の情報発信の充実

これまで同様に定期的に機関紙「えこびと」を発行するとともに、団体ブログにより情報発信を行います。

また、今年度は、団体を紹介するリーフレットの見直しやホームページの制作を行うとともに、メーリングリストやメールマガジンを利用して会員に対する情報提供サービスを行います。

＜ホームページアドレス　　http://t-ecobito.jimdo.com/＞

（３）シンポジウム等の開催

環境まちづくりに関連したテーマのシンポジウム・講演会を開催します。

６．環境学習施設等の管理運営事業

豊田市からの委託を受けて、豊田市環境学習施設 eco-T の運営を実施します。一年半の利用休止期間が終了し、再び、来館の動機となるような魅力的な講座・イベント・展示物をインタープリターとともにつくっていきます。さらに来館者の滞在時間を増やしたり、体験ポイントを付与するなど、リピーターになっていただけるような試みをします。また、今年度も引き続き、インタープリターの育成を行い、伝える人を増やしていきます。一方、活動者が増えることで、コミュニケーションが十分とれなくなるなど、一体感が薄れる懸念もあるので、世話人会などの議題として、話し合っていきます。

７．その他、法人の目的を達成するために必要な事業

要請に応じて、環境啓発グッズの製作・販売を行います。また、必要な事業があれば行っていきます。

【法人運営】

１．会員

正会員 30 名、賛助・学生会員 70 名を目標に、会員を募集します。

（参考：平成 23 年度末時点正会員 22 名、賛助会員 31 名・１団体）

２．寄付等

イベントなど、機会あるごとに法人の運営資金や東日本大震災支援等への寄付を募ります。

３．会議の開催

（１）通常総会

7 月 21 日（土）に、豊田市福祉センターにて、実施します。

合わせて、持続可能な社会をテーマとした映画の上映会（&意見交換会）を開きます。

（２）理事会

月に１回程度開催し、中期ビジョンの策定や新規事業づくり、運営上の課題等についての話し合いを行います。

４．理事・職員研修等

施設運営の向上や学習事業の充実を図るため、外部で開催される研修会等にスタッフや理事が参加できるよう、情報を収集し、参加を促進します。

２．2012 年度収支予算　（期間　2012 年 6 月 1 日から 2013 年 5 月 31 日まで）

科　　目	金　額　（円）			備考
Ⅰ　収入の部				
１　会費収入				
１）正会員会費収入	300,000			正会員30名
２）賛助会員会費収入	78,000	378,000		賛助会員・学生会員70名、団体1
２　寄付金収入	10,000	10,000		
３　事業収入				
１）環境学習事業	0			
２）環境学習等への支援、連携事業	690,000			豊森なりわい塾（6～3月）、イベント出展3回、事務所シェア賃料など
３）環境配慮型商品等の普及促進事業	0			
４）調査研究、政策提言事業	0			
５）情報受発信事業	12,000			総会映画会
６）環境学習施設等の管理運営事業	42,000,000			eco-T運営業務（6～3, 4～5月）
７）その他事業	0	42,702,000		
４　その他収入				
１）受取利息	1,800	1,800		
当期収入合計			43,091,800	
Ⅱ　支出の部				
１　事業費				
１）環境学習事業	0			
２）環境学習等への支援、連携事業	483,000			人件費、交通費、イベント材料費など
３）環境配慮型商品等の普及促進事業	50,000			緑のカーテン雑費（資材、印刷費）
４）調査研究、政策提言事業	100,000			
５）情報受発信事業	100,000			映画
６）環境学習施設等の管理運営事業	33,600,000			eco-T運営費用
７）その他事業	0	34,333,000		
２　管理費				
１）役員報酬	0			
２）給料手当	2,680,800			法人運営
３）臨時雇賃金	0			
４）福利厚生費	240,000			
５）会議費	20,000			理事会10回、総会1回
６）旅費交通費	30,000			会議参加交通費等
７）通信運搬費	150,000			電話・FAX料、事務所インターネット、郵送料3万円　等
８）消耗什器備品費	420,000			事務所什器
９）消耗品費	12,000			事務所消耗品費等
10）印刷製本費	120,000			パンフレット・チラシ印刷費
11）光熱水料費	240,000			事務所光熱水費
12）賃借料	1,914,000			事務所費、駐車場代
13）保険料	50,000			事務所火災保険など
14）諸謝金・会費	56,000			自治区・商店街費、その他会費
15）リース料	540,000			業務車両
16）支払い手数料	1,237,200			IT、総務関係のサポート、振込手数料
15）租税公課	25,000			収入印紙
16）雑費	0	7,735,000		
４　予備費				
１）予備費	0	0		
当期支出合計			42,068,000	
当期収支差額			1,023,800	
前期繰越収支差額			8,987,909	
次期繰越収支差額			10,011,709	

３．役員の辞任

（１）役員の辞任

理事会において１名の辞任を承認しました。

辞任した役員　理事（1 名）

萩原　喜之

（２）2012 年度の役員

理事　９名

岩月　桂子

小泉　達也

坂本　竜児

田上　治

長嶋　一枝

野武　審

萩原　恵子

松浦　貴子

南谷　五郎

監事　１名

石村　正行

2012 年 7 月　特定非営利活動法人　とよたエコ人プロジェクト

【団体所在地（事務所）】
〒471-0025
愛知県豊田市西町 1-88
カニックビル５階
TEL　0565-50-5684
FAX　0565-50-5568
ホームページ
http://t-ecobito.jimdo.com/

☆市民・NPO・行政の３者の共働で運営しています。

【豊田市環境学習施設　eco-T（エコット）】
〒470-1202　豊田市渡刈町大明神 39-3
開館時間　9：00～17：00
休館日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始
TEL　0565-26-8058
FAX　0565-26-8068
ホームページ　http://www.eco-toyota.com/